

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和2年度7月

○ 概要

- (1) 令和2年7月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,372億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲3.6%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,746円（伸び率+7.4%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,599億円（伸び率▲5.3%）薬剤料が4,760億円（伸び率▲3.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が937億円（伸び率▲2.9%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,879円（伸び率+7.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率+0.0%）、28.2日（伸び率+12.7%）、76円（伸び率▲4.7%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,843億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲141億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは21循環器官用薬の669億円（伸び幅▲69億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+35億円（総額399億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,843億円 (▲141億円)	21 循環器官用薬 (669億円)	39 その他の代謝性 医薬品(664億円)	11 中枢神経系用薬 (657億円)
0歳以上 5歳未満	17.8億円 (▲8.6億円)	44 アレルギー用薬 (7.1億円)	61 抗生物質製剤 (2.6億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4億円)
5歳以上 15歳未満	70.8億円 (▲7.4億円)	44 アレルギー用薬 (25.2億円)	11 中枢神経系用薬 (21.2億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.8億円)
15歳以上 65歳未満	1,341億円 (▲37億円)	11 中枢神経系用薬 (295億円)	39 その他の代謝性 医薬品(251億円)	21 循環器官用薬 (201億円)
65歳以上 75歳未満	923億円 (▲25億円)	39 その他の代謝性 医薬品(192億円)	21 循環器官用薬 (185億円)	42 腫瘍用薬 (128億円)
75歳以上	1,491億円 (▲62億円)	21 循環器官用薬 (278億円)	11 中枢神経系用薬 (231億円)	39 その他の代謝性 医薬品(215億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,746円（伸び率+7.4%）で、最も高かったのは高知県（11,561円（伸び率+5.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,230円（伸び率+5.4%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+14.2%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率+2.8%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	80.4 %	+2.1 %
薬剤料ベース	19.7 %	+0.0 %
後発品調剤率	75.8 %	+1.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	56.9 %	+2.3 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.9 %	+8.0 % (100歳以上)	▲24.1 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	27.6 % (100歳以上)	12.0 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.4 %	85.1 % (100歳以上)	73.1 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	814億円 (▲36億円)	21 循環器官用薬 (254億円)	11 中枢神経系用薬 (123億円)	23 消化器官用薬 (109億円)
0歳以上 5歳未満	5.4億円 (▲2.3億円)	44 アレルギー用薬 (2.8億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5億円)	61 抗生物質製剤 (0.5億円)
5歳以上 15歳未満	13.7億円 (▲2.1億円)	44 アレルギー用薬 (8.1億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4億円)
15歳以上 65歳未満	269億円 (▲20億円)	21 循環器官用薬 (72億円)	11 中枢神経系用薬 (52億円)	23 消化器官用薬 (31億円)
65歳以上 75歳未満	198億円 (▲9億円)	21 循環器官用薬 (78億円)	23 消化器官用薬 (25億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21億円)
75歳以上	329億円 (▲3億円)	21 循環器官用薬 (105億円)	23 消化器官用薬 (52億円)	11 中枢神経系用薬 (51億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,433円	1,832円(北海道)	1,194円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+8.2 %	+13.5 % (徳島県)	+2.7 % (福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.4 %	88.1 % (沖縄県)	75.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	23.0 % (鹿児島県)	17.1 % (京都府)
後発医薬品調剤率	75.8 %	82.1 % (沖縄県)	71.1 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	56.9 %	64.6 % (沖縄県)	52.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。